

9・26いのちまもる総行動

医療・介護・福祉の充実を訴え

国に医療・介護・福祉の予算増額を求める「いのちまもる総行動」が9月26日、東京都千代田区の日比谷野外音楽堂で行なわれました。尾張健友会から参加した職員の見聞を報告します。

時代は変わる！

介護サービス推進課

谷口 薫

印象的だったのは、松



元ヒロ氏の講演にあった「時代は変わる」という言葉です。100年前には女性の参政権すらなかったイギリスが、今では下院議員の40%が女性であることを引き合いに、時代は必ず変わるものだと言葉を交えて話されました。

これまでは、国に好き勝手やらせないためには運動が必要だと理解しつつも、結局は変えて話されました。

直近では旧優性保護法における強制不妊手術問題の最高裁判決においても、これまでの固定観念を覆し国の責任を認めています。これは当事者の方々が声を上げ続けた結果です。

今回の行動とも関連する、介護保険に関する請願書名を各事業所の利用者への請求書に封入したところ、10月5日現在で350筆の返送がありました。特に食費・居住



左から、谷口、井上、藤原三宅

いのちと暮らしを守れ

特別養護老人ホーム

・ちあき第二

介護福祉士三宅 桂子

現場の報告を聞きながら、この現状を私の周りの知らない人たちに伝えようと改めて思いました。能登半島地震で被災した現地の介護職員からの報告では、水道復旧は個人でとのこと。

日々の暮らし、いのちを守るのは個人任せ。軍事費に費やすお金があったら、国民のいのちと暮らしを守れ!!と、国の政策に改めて憤りを感じる

とともに、これからは社会保障の拡充に声を上げたいと思います。

被災地支援が最優先

本部経理課

藤原 誠子

リレートークでは、石川民医連から現在の能登の状況の報告がありました。看護師が60人以上退職の意向を示し、病院経営への危機感、生活再建の目的が立たない不安を訴えていました。

政府はアメリカから高額兵器の大量購入を進めています。今、日本ではいのちや生活の危機に直面している被災地の復興に尽力すべきです。国家主義ではなく、人権主義。軍事ではなく、いのちと暮らしを守る未来を選びたいです。

国に訴えることを初めて経験しました。これでもかと思いませんが、変えたいと思って行動する姿勢が大切なのだと感じました。

ボランティア講座 書いてみよう！エンディングノート

9月21日、法人ボランティア委員会主催で「書いてみよう！エンディングノート」と題して、



ボランティア講座を開催しました。ボランティア講座は、法人内で活躍しているボランティアが、地域の方と一緒に学習する目的で毎年開催されています。

今回は初めて一宮市の「出前一聴」という無料の講座を利用しました。講師は一宮市役所の高齢

福祉課の方でした。当初は参加者が集まるかどうか心配でしたが、21名の参加があり、よかったです。

講義では、エンディングノートの内容の説明

と、書き方のコツなどを教えてもらい、参加者からも「ゆっくり書けばいいことが分かってよかった」「今日の講座をきっかけに、家族会議を開いてみます」など感想が寄せられ、参加者が感じている不安にこたえることができました。

リレートークでは、石川民医連から現在の能登の状況の報告がありました。看護師が60人以上退職の意向を示し、病院経営への危機感、生活再建の目的が立たない不安を訴えていました。

政府はアメリカから高額兵器の大量購入を進めています。今、日本ではいのちや生活の危機に直面している被災地の復興に尽力すべきです。国家主義ではなく、人権主義。軍事ではなく、いのちと暮らしを守る未来を選びたいです。

健友福祉会だより

ホームページ: <http://www.chikiki.com/fukushi>

感謝を込めて敬老祝賀会

ケアハウスちあき

デイサービスセンター・ちあき

9月18日、ケアハウスちあきとデイサービスセンター・ちあき合同で5年ぶりの敬老祝賀会を開催しました。

祝賀会は「遊友裕」の鈴木さんのピアノ演奏とマジックショーでスタート。続いて、職員による歌やダンスを披露。ダンスはアンコールも出て、大いに盛り上がりました。

敬老の日は「多年にわたり社会につくしてきた方を敬愛し、長寿を祝う日」。

そんな気持ちを含めて、プレゼントをお渡しし、90歳以上の方に

「来年も元気に祝賀会に参加すること」を施設長と入居者・利用者みなさんが約束して閉会しました。これからも長寿の一助となるよう努めていきます。

はお花を贈呈。何と、ケアハウス入居者の最高齢は102歳、デイサービス利用者の最高齢は100歳の方です。



自治体キャラバン事前学習会

各市の実態と、要望事項を準備

9月24日、愛知県社会保障推進協議会の小松民

子事務局長を招き、愛知

自治体キャラバン事前学習会を千秋病院市民健康

教室で25名が参加して行

ないました。

自治体キャラバンに向け、重点項目と要望項目を中心に自治体と懇談するため、介護保険料や滞

納の実態、特養の待機者数の比較、国保料など学習しました。

例えば、県内で「18歳

年度末までの子どもの医療費窓口負担の無料制度」が実施されていないのは9市町村のみで、一宮市もそのうちの1市です。

良い制度に合わせていくよう懇談を重ね、昨年の懇談を受けて、補聴器の補助を開始した自治体が複数ありました。

今回の事前学習会により、行政サービスの問題点を分析し、よりよい懇談とするための学びができました。

例えば、県内で「18歳